

## 受益者のみなさまへ

毎々格別のお引き立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

さて、ご投資いただいております『グローバルドライブ（3ヵ月決算型）限定為替ヘッジ』は、2015年2月18日に第4期決算を行いました。

当ファンドは、世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。実質外貨建資産については、原則として米ドル売り／円買いの為替取引を行います。当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに第3期から第4期までの運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

第4期末（2015年2月18日）	
基準価額	10,162円
純資産総額	784百万円
第3期～第4期	
騰落率	1.2%
分配金（税込み）合計	50円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。

(注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。

### <お知らせ>

運用報告書は、「投資信託及び投資法人に関する法律」の改正により2014年12月1日以降に作成期日が到来するものから交付運用報告書と運用報告書（全体版）に二段階化されています。

この運用報告書は交付運用報告書です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記ホームページの「基準価額一覧」などから当ファンドのファンド名称を選択することにより、ファンド詳細ページにおいて運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

# グローバルドライブ （3ヵ月決算型） 限定為替ヘッジ

追加型投信／内外／資産複合

## 【交付運用報告書】

作成対象期間（2014年8月19日～2015年2月18日）

第3期(決算日2014年11月18日)

第4期(決算日2015年2月18日)

## 新光投信株式会社

東京都中央区日本橋1丁目17番10号

<http://www.shinkotoushin.co.jp/>

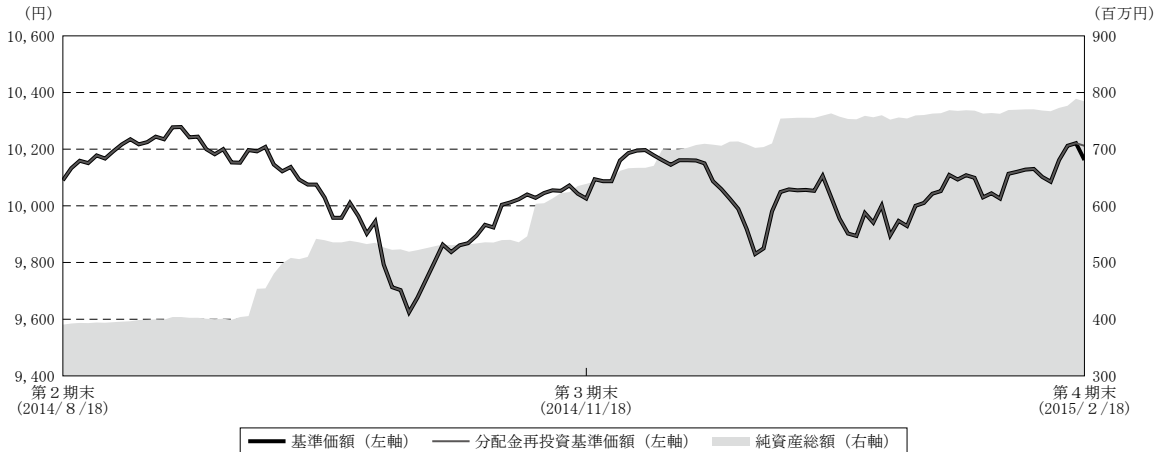
当運用報告書の内容についてのお問い合わせ先  
ヘルプデスク 0120-104-694（フリーダイヤル）  
受付時間は営業日の午前9時～午後5時です。

(18548-9916)

## 運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2014年8月19日～2015年2月18日)



第3期首：10,090円

第4期末：10,162円（既払分配金：50円）

騰落率：1.2%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2014年8月18日の値が基準価額と同一となるように指数化してあります。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。

### ○基準価額の主な変動要因

グローバルドライブ・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）を通じて、主として「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド・クラスX」（以下、「アロケーション・ファンド」といいます。）米ドル建投資証券に実質的な投資を行います。補助的な位置付けとして、短期米ドル建債券などを主要投資対象とする上場投資信託証券（以下、「短期米ドル債ETF」といいます。）にも、マザーファンドを通じて実質的な投資を行います。また、実質外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて米ドル売り／円買いの為替取引を行います。

第3期首10,090円でスタートした基準価額は、2014年9月5日に10,278円の作成期間中高値を付けた後、10月17日に作成期間中安値となる9,624円へ下落しました。その後は値を戻し、10,212円（第4期の分配金込み）で第4期末を迎えました。

アロケーション・ファンドの価格が分配金込みで1.8%上昇したことが、基準価額の上昇に寄与しました。

1万口当たりの費用明細

(2014年8月19日～2015年2月18日)

項目	第3期～第4期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	103円	1.024%	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率× $\frac{\text{経過日数}}{365}$
(投信会社)	(63)	(0.629)	委託した資金の運用、基準価額の算出などの対価
(販売会社)	(38)	(0.379)	購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、分配金・償還金・換金代金支払などの事務手続きなどの対価
(受託会社)	(2)	(0.016)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行などの対価
(b) その他費用	1	0.010	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.003)	保管費用は、海外における保管銀行などに支払う有価証券などの保管および資金の送金・資産の移転などに要する費用
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人などに支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(0)	(0.004)	その他は、信託事務に係る諸費用など
合計	104	1.034	
作成期間の平均基準価額は、10,091円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入して表示してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2010年2月18日～2015年2月18日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、設定日（2014年2月24日）の値が基準価額と同一となるように指数化してあります。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示してあります。

	2014年2月24日 設定日	2015年2月18日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,162
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	100
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	2.6
純資産総額 (百万円)	31	784

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。
- (注) 騰落率は設定日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2015年2月18日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) マザーファンドへの投資を通じて、世界各国の様々な資産への分散投資と為替取引で得られる収益の獲得による投資信託財産の成長を目指して運用を行うという、当ファンドのコンセプトに適した指数等がございません。よって、ベンチマーク等は設定しておりません。

**投資環境**

（2014年8月19日～2015年2月18日）

**○米国株式市場**

米国株式市場は、ウクライナ東部の紛争収束への期待感や米国の住宅関連市場の大幅改善などが好材料となったものの、FRB（米連邦準備制度理事会）の利上げ時期を巡る警戒感や、ドイツの経済指標の大幅な悪化に伴い世界経済の下振れ懸念が高まったことなどを背景に、10月中旬にかけて値下がりする展開となりました。10月中旬以降は、堅調な米国経済指標、11月の米国中間選挙で一般的に企業寄りとされる野党共和党が歴史的な大勝を収めたこと、雇用情勢の改善、ガソリン価格の下落など好材料が相次いだことから、12月上旬にかけて上昇基調をたどりました。第4期末にかけては中国経済の減速懸念のほか、急速な原油安に伴う国際金融市場の不安定化、ギリシャの財政再建への懸念およびユーロ圏離脱観測などを背景に、米国株式市場は振れ幅の大きな展開となりました。

このような推移の結果、第4期末における米国株式市場は、第3期首と比べて上昇となりました。

**○欧州株式市場**

ウクライナ東部の停戦合意のほか、ECB（欧州中央銀行）によるABS（資産担保証券）およびカバードボンド（金融機関が発行する担保付社債）の買い入れを含む追加金融緩和策が市場に評価され、欧州株式市場は9月上旬にかけて上昇しました。しかし10月に入ると、ドイツの鉱工業生産や輸出などの経済指標が大幅に悪化したため、欧州株式市場は10月半ばにかけて急落しました。その後はドラギECB総裁が一段の金融緩和措置に向けて準備に着手する姿勢を表明したことや、中国人民銀行が予想外の利下げに踏み切ったことなどが好材料となり、12月上旬にかけてV字回復となりました。年末年始を挟んでは、中国の減速懸念、急速な原油安を背景としたロシア・ルーブルの急落、ギリシャのユーロ圏離脱観測などから不安定な値動きとなりましたが、ECBが2015年1月下旬に量的金融緩和策の実施を決定したことが支えとなり、欧州株式市場は作成期間中高値を更新して第4期末を迎えました。

このような推移の結果、第4期末における欧州株式市場は、第3期首と比べて上昇となりました。

**○国内株式市場**

国内株式市場は、ウクライナ情勢の改善期待や米国の住宅関連指標の大幅改善などにより値を戻す展開となりました。9月中旬に開催されたFOMC（米連邦公開市場委員会）で金融緩和政策の出口戦略が示され、消費増税後の景気回復の鈍い日本との金利差が拡大するとの思惑から円安ドル高が進行したことも追い風となり、9月末にかけて上昇しました。

10月に入ると、ドイツの経済指標の大幅な悪化に伴い外国為替市場で円高ドル安に転じたことから、国内株式市場も値下がりしました。10月中旬以降は、日銀が長期国債、ETF（指数連動型上場投資信託）、REIT（不動産投資信託）の買い入れ増額を柱とする追加金融緩和策を発表したことや、消費税の再引き上げ延期・衆議院解散などを背景に急激に円安ドル高が進行したことから、12月上旬にかけて大幅な株価上昇となりました。年末年始を挟んでは、中国経済の減速懸念、急速な原油安に伴う国際金融市場の不安定化、ギリシャのユーロ圏離脱観測などを背景に神経質な展開

となったものの、国内企業業績への期待などが相場を下支えする展開となりました。  
このような推移の結果、第4期末における国内株式市場は、第3期首と比べて上昇となりました。

### ○米国債券市場

米国債券市場ではFRBによる利上げへの警戒感から米国10年国債利回りが上昇（価格は下落）する場面も見られましたが、ドイツの経済指標の大幅悪化、日本や欧州の金融緩和、原油価格の下落による物価下押し圧力などを背景に、米国10年国債利回りは2014年末にかけてじりじりと低下（価格は上昇）する展開となりました。2015年に入ると、ギリシャのユーロ圏離脱観測やECBの量的金融緩和を背景に利回りの低下（価格の上昇）に拍車がかかりました。2月に入り、米国の雇用関連の経済指標が非常に強い内容であったことが確認されると、米国10年国債利回りは上昇（価格は下落）に転じました。

このような推移の結果、第3期首2.4%台であった米国10年国債利回りは、第4期末には2.1%台に低下（価格は上昇）しました。

### ○欧州債券市場

欧州債券市場では、ユーロ圏の景気や物価に対する見通しが悪化するなか、各国国債利回りの低下（価格の上昇）が進みました。途中、ECBの追加金融緩和の内容が市場予想を上回ったことや、初回入札を控えたTLTRO（ターゲット型長期資金供給オペ）による実体経済活性化への期待からドイツやフランスの国債利回りが上昇（価格は下落）しました。しかし、TLTROによる資金供給額が想定を大幅に下回ったことやドイツの経済指標悪化を受けて、これらの国債利回りは再び低下（価格は上昇）基調に戻りました。2014年末から2015年初めにかけても、原油安による物価下落圧力、ロシア・ルーブル暴落による同国経済への懸念、ギリシャのユーロ圏離脱観測など、利回りの低下（価格の上昇）材料に事欠かない展開が続きました。このような状況のもと、ECBによる量的金融緩和の可能性がいよいよ強まるなか、1月下旬にECBが量的金融緩和の実施を決定すると、各国国債利回りは更に押し下げられる（価格は上昇する）結果となりました。2月に入ると、ギリシャの財政再建やユーロ圏残留に関する懸念が一層強まり、各国国債利回りは幾分上昇（価格は低下）しました。

このような状況のもと、ドイツ10年国債利回りは1.0%台から0.3%台へと、フランス10年国債利回りは1.4%台から0.6%台へとそれぞれ低下（価格は上昇）しました。イタリアやスペインなど南欧諸国の国債利回りも、ギリシャを除いて軒並み低下（価格は上昇）する展開となりました。

### ○外国為替市場

第3期首102円台前半でスタートした米ドル/円相場は、米国の住宅関連指標の大幅改善やウクライナとロシアの首脳会談への期待などをを受けて徐々に円安ドル高の流れとなりました。FRBによる利上げへの警戒感、GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）の運用改革による海外投資の増加への期待、消費増税後の国内経済の回復の鈍さなども円安ドル高に拍車をかけ、9月末に1ドル=109円台半ばとなりました。10月に入ると、ユーロ圏経済の中心であるドイツ経済の先行き

懸念から円高ドル安に振れ、10月中旬に1ドル=106円程度となりました。その後は、10月下旬のFOMC声明文が米国労働市場の改善と景気回復への自信を示唆する内容であったほか、日銀による追加金融緩和がサプライズとなり、大幅な円安ドル高となりました。国内経済の2四半期連続のマイナス成長や、消費税の再引き上げ延期による財政再建への不透明感も円安ドル高要因となり、12月上旬に1ドル=121円台半ばとなりました。その後はOPEC（石油輸出国機構）の減産見送りなどをきっかけとした急速な原油安に伴う国際金融市場の不安定化や、ギリシャのユーロ圏離脱観測などにより市場が不安定になるなか、幾分円高ドル安方向に振れ、1ドル=119円台前半で第4期末を迎えました。

## ポートフォリオについて

(2014年8月19日～2015年2月18日)

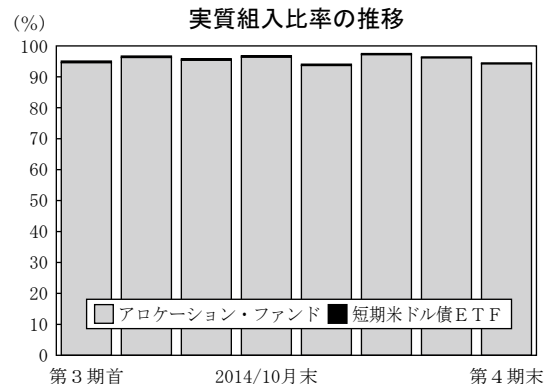
### ○当ファンド

マザーファンドへの投資を通じてアロケーション・ファンドの実質組入比率を高位に維持し、第4期末の実質組入比率を94.2%としました。また、マザーファンドを通じた短期米ドル債ETFの実質組入比率を第4期末時点で0.2%としました。その結果、10,090円でスタートした基準価額は、10,212円（第4期分配金込み）で第4期末を迎えました。

### ○グローバルドライブ・マザーファンド

主としてアロケーション・ファンドに投資を行います。また、補助的な位置付けとして、短期米ドル債ETFにも投資を行います。なお、外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて為替ヘッジを行いません。

アロケーション・ファンドの組入比率を高位に維持し、第4期末の組入比率を97.0%としました。また、短期米ドル債ETFの組入比率を第4期末時点で0.3%としました。その結果、2014年8月18日に10,246円であった基準価額は、第4期末には12,141円となりました。



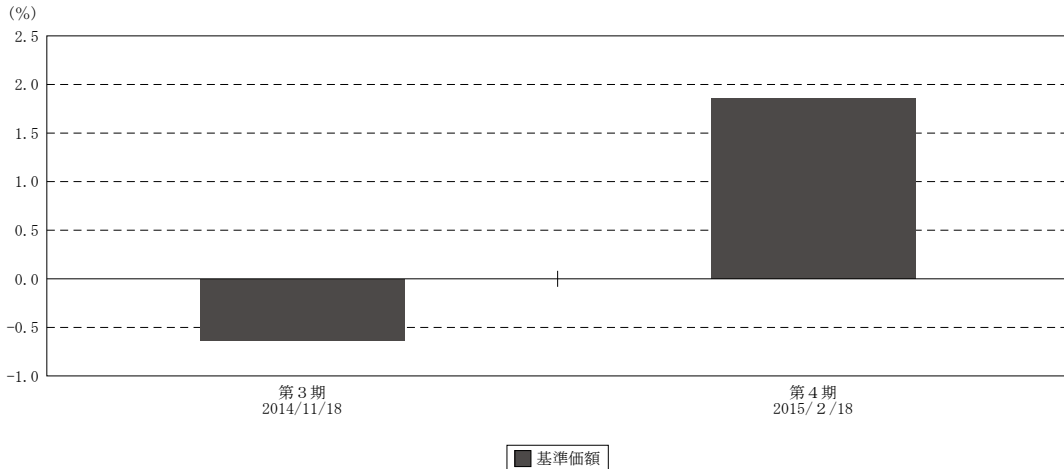
※比率は、純資産総額に対する割合。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

（2014年8月19日～2015年2月18日）

マザーファンドへの投資を通じて、世界各国の様々な資産への分散投資と為替取引で得られる収益の獲得による投資信託財産の成長を目指して運用を行うという、当ファンドのコンセプトに適した指数等がございません。よって、ベンチマーク等は設定しておりません。グラフは、基準価額の騰落率です。

基準価額（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金込みです。

## 分配金

（2014年8月19日～2015年2月18日）

収益分配につきましては、基準価額水準や市況動向などを勘案し、第3期は分配せず、第4期に1万口当たり50円の分配を行いました。留保益の運用については特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。

### ○分配原資の内訳（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第3期	第4期
	2014年8月19日 ～2014年11月18日	2014年11月19日 ～2015年2月18日
当期分配金	—	50
（対基準価額比率）	—%	0.490%
当期の収益	—	0
当期の収益以外	—	49
翌期繰越分配対象額	131	161

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。  
（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。



## 今後の運用方針

### ○当ファンド

引き続きマザーファンドを通じたアロケーション・ファンドの実質組入比率を高位に維持し、世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。

また、ヘッジ比率を高位に維持し、米ドル建て資産に対する為替変動リスクを軽減するよう調整します。

### ○グローバルドライブ・マザーファンド

引き続き、アロケーション・ファンドの組入比率を高位に維持し、世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。

## お知らせ

### 投資信託約款変更について

「投資信託及び投資法人に関する法律」等の改正に伴い、運用報告書（全体版）の電磁的方法等による交付に関する記載追加を行いました。

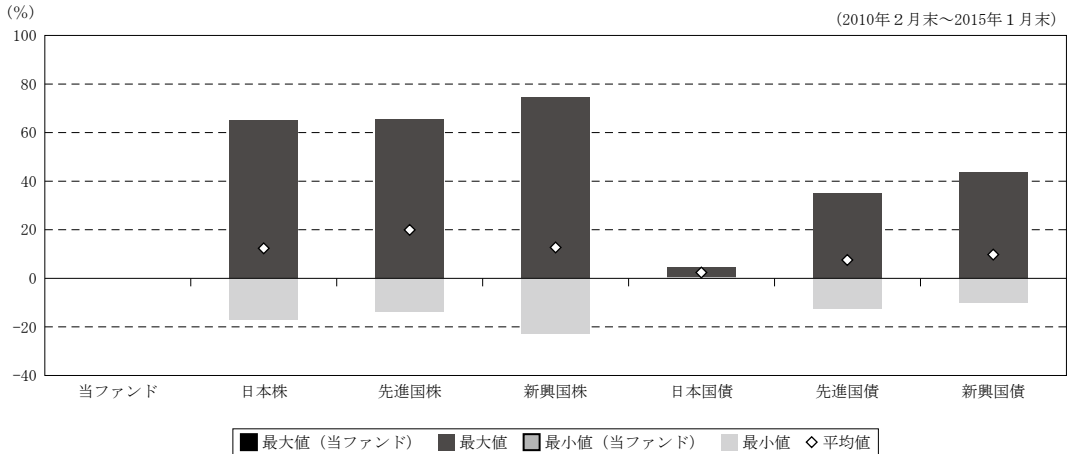
（効力を生ずる日 2014年12月1日）

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2014年2月24日から2024年2月19日まで。	
運用方針	投資信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	グローバルドライブ・マザーファンド受益証券。
	グローバルドライブ・マザーファンド	投資信託証券。
運用方法	グローバルドライブ・マザーファンドへの投資を通じて、主としてブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドークラスX（以下「アロケーション・ファンド」といいます。）米ドル建投資証券に実質的な投資を行い、世界各国の様々な資産への分散投資と為替取引で得られる収益の獲得を目指します。加えて、短期米ドル建債券等を主要投資対象とする上場投資信託証券にも、実質的な投資を行います。アロケーション・ファンドの実質組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。実質外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて米ドル売り／円買いの為替取引を行います。	
分配方針	分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利息・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配金額は、基準価額水準や市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合などには、分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：％）

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	—	65.0	65.7	74.5	4.5	34.9	43.7
最小値	—	△17.0	△13.6	△22.8	0.4	△12.7	△10.1
平均値	—	12.3	19.9	12.7	2.4	7.5	9.7

（注）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

（注）2010年2月から2015年1月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドにつきましては、運用期間が1年未満であるため掲載していません。

（注）上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P15の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算してあります。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

(2015年2月18日現在)

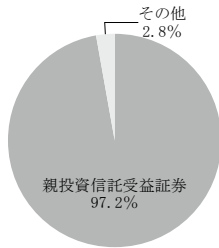
#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第4期末
グローバルドライブ・マザーファンド	97.2%
組入銘柄数	1銘柄

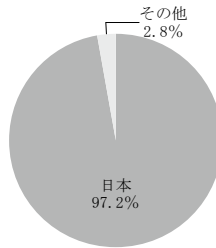
(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

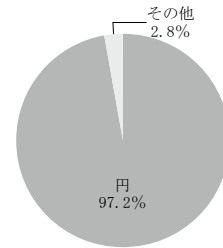
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

### 純資産等

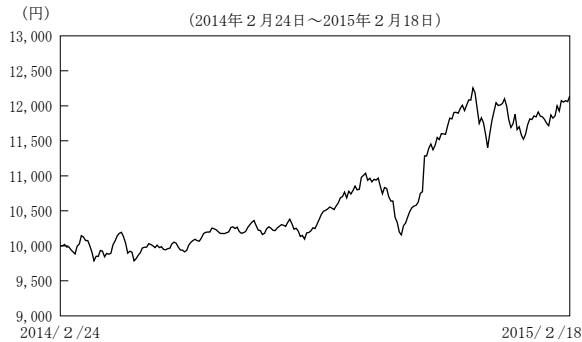
項目	第3期末	第4期末
	2014年11月18日	2015年2月18日
純資産総額	638,703,564円	784,308,745円
受益権総口数	637,070,934口	771,837,131口
1万口当たり基準価額	10,026円	10,162円

\* 当作成期間（第3期～第4期）中における追加設定元本額は425,324,090円、同解約元本額は40,377,611円です。

組入上位ファンドの概要

グローバルドライブ・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2014年2月24日～2015年2月18日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (投資信託証券)	0円 (0)	0.000% (0.000)
(b) その他費用 (保管費用) (その他)	1 (1) (0)	0.009 (0.009) (0.001)
合計	1	0.009

期中の平均基準価額は、10,725円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては、2ページをご参照ください。  
 (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入して表示してあります。

○組入上位10銘柄

(2015年2月18日現在)

	銘柄名	国（地域）	通貨	比率
1	ISHARES SHORT TREASURY BOND ETF	アメリカ	米ドル	0.3%
2	—	—	—	—
3	—	—	—	—
4	—	—	—	—
5	—	—	—	—
6	—	—	—	—
7	—	—	—	—
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	—	—	—	—
組入銘柄数			1銘柄	

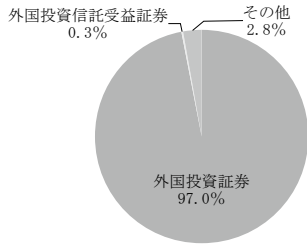
- (注) 比率は、純資産総額に対する割合です。  
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

○組入上位ファンド

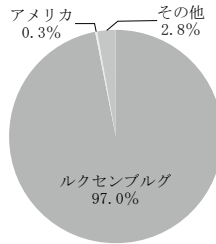
銘柄名	当期
ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンドークラスX米ドル建投資証券	97.0%
組入銘柄数	1銘柄

- (注) 比率は、純資産総額に対する割合です。  
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

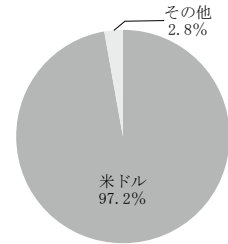
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

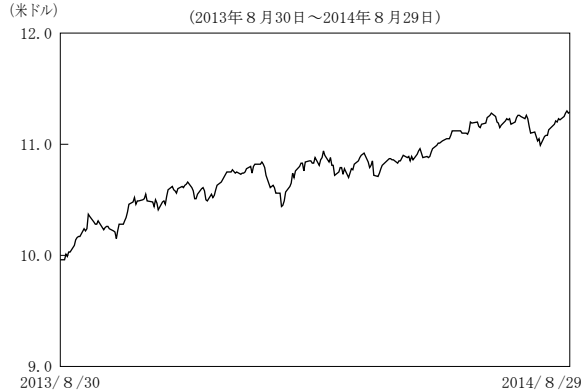
(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

—— <ご参考> ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド・クラスX米ドル建投資証券 ——

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

当該期間の1万口当たりの費用明細については、開示してないため掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2014年8月30日現在)

	銘柄名	業種／種別等	国（地域）	通貨	比率
					%
1	UK CONV GILT 2.25 09/07/2023	国債	イギリス	英ポンド	1.3
2	MEXICO (UNITED MEXICAN STATES) 10 12/05/2024	国債	メキシコ	メキシコペソ	1.2
3	BRAZIL (FEDERATIVE REPUBLIC OF) 10 01/01/2021	国債	ブラジル	ブラジルリアル	1.0
4	TREASURY NOTE 2 05/31/2021	国債	アメリカ	米ドル	1.0
5	PROCTER & GAMBLE	生活必需品	アメリカ	米ドル	0.9
6	GERMANY (FEDERAL REPUBLIC OF) 4.25 07/04/2017	国債	ドイツ	ユーロ	0.8
7	TREASURY NOTE 2.25 03/31/2016	国債	アメリカ	米ドル	0.7
8	TREASURY NOTE 2.25 04/30/2021	国債	アメリカ	米ドル	0.7
9	WELLS FARGO & CO.	金融	アメリカ	米ドル	0.7
10	TREASURY NOTE (OLD) 1.625 07/31/2019	国債	アメリカ	米ドル	0.7
組入銘柄数			674銘柄		

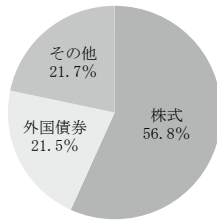
(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 組入有価証券に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

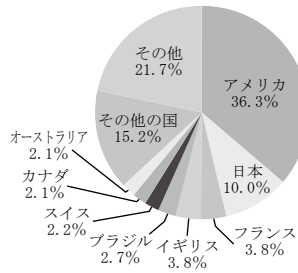
(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注) 上記の表は、ブラックロックのデータをもとに記載してあります。

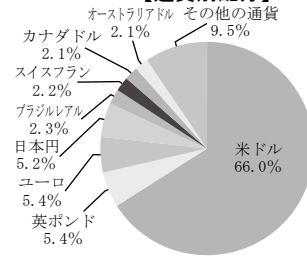
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
- (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。
- (注) その他は、純資産総額から有価証券を差し引いた数字です。
- (注) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。
- (注) 上記のグラフは、ブラックロックのデータをもとに記載してあります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI — KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI — KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○NOMURA — BPI国債

NOMURA — BPI国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA — BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス—エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス — エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス — エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2014, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.